

「JENESYS2018」中国高校生訪日団第2陣（招へいプログラム）の記録 （対象国：中国、テーマ：スポーツと五輪）

1. プログラム概要

中国教育部が派遣した「JENESYS2018」中国高校生訪日団第2陣計198名が、11月6日から11月14日までの8泊9日の日程で来日しました（団長：張興華（チョウ・コウカ）曲靖市教育局 副局長）。一行は6つのグループに分かれ、東京のほか、山形・岩手・宮城・新潟・滋賀・石川・福井・富山・長崎・佐賀を訪問。各地の高校を訪問し、日本の高校生との交流を通じて、同世代同士の友情を深めました。また、訪日団のテーマである「スポーツと五輪」について、講義や関連施設の視察を通して学んだほか、日本の政治・社会・科学技術・歴史・文化・自然などの見学などを通じ、日本の魅力を体感しました。中国高校生は、今回の訪日で多くの人々と交流し、日本人の考え方に触れ、様々な角度から日本理解を深めることができ、見聞したことや体験したことを自身のSNSなどを通じて発信しました。また、報告会で帰国後のアクション・プラン（活動計画）について、各グループの代表者が発表しました。

【訪問地】 東京都（全員）、富山県（34名）、石川県（34名）、福井県（31名）、滋賀県（31名）、長崎県（33名）、佐賀県（33名）、岩手県（34名）、宮城県（33名）、山形県（33名）、新潟県（33名）

2. 日程

11月6日（火）

羽田空港、成田空港より入国

- 共通プログラム：東京都

【オリエンテーション】

11月7日（水）～11月12日（月）

- 共通プログラム：東京都

【セミナー】「オリンピック・パラリンピックの歴史・意義」

「官民連携で取り組むSFTの概要と中国関係事業紹介」

【大学訪問】法政大学（Aコース グループ1・2・3、Bコース グループ3）、上智大学（Bコース グループ1・2）

【歓迎会】

※6グループに分かれてプログラムを実施

- Aコース グループ1：富山県/石川県

【学校訪問】富山県立伏木高等学校、石川県立金沢商業高等学校（職業科交流）

【テーマに関する視察】いしかわ総合スポーツセンター

【体験】万華鏡制作、民泊（富山県朝日町）

【見学】富山市ガラス美術館、五箇山合掌造り集落、金沢市立安江金箔工芸館、
ひがし茶屋街、兼六園

● Aコース グループ2：福井県/滋賀県

【学校訪問】福井県立武生工業高等学校（職業科交流）、
学校法人立命館 立命館守山高等学校

【テーマに関する視察】福井工業大学武徳殿・体育館

【体験】黒壁サンドブラスト制作、民泊（福井県福井市など）

【見学】一乗谷朝倉氏遺跡、御誕生寺、東尋坊、福井県立恐竜博物館、彦根城

● Aコース グループ3：長崎県/佐賀県

【学校訪問】長崎県立佐世保商業高等学校（職業科交流）、
佐賀県立唐津東高等学校

【テーマに関する視察】長崎県総合運動公園

【体験】勾玉製作、民泊（長崎県大村市）

【見学】九十九島、弓張岳、長崎原爆資料館、大浦天主堂、虹の松原、唐津城、
曳山展示場

● Bコース グループ1：岩手県/東京都

【学校訪問】岩手県立不来方高等学校、
東京都立総合工科高等学校（職業科交流）

【テーマに関する視察】盛岡タカヤアリーナ

【体験】染物体験、民泊（岩手県雫石町）

【見学】盛岡城跡公園、小岩井農場、皇居外苑

● Bコース グループ2：宮城県/山形県

【学校訪問】宮城県仙台東高等学校、学校法人九里学園 九里学園高等学校

【テーマに関する視察】ひとめぼれスタジアム宮城

【体験】紅花染め体験、温泉旅館宿泊

【見学】せんだいメディアテーク、青葉城址、松島、岩沼ひつじ村、宝珠山立石
寺

● Bコース グループ3：新潟県/東京都

【学校訪問】新潟県立燕中等教育学校、東京都立田柄高等学校

【テーマに関する視察】オールアルビレックス・スポーツクラブ、デンカビッグ
スワンスタジアム

【体験】紙風船制作、民泊（新潟県上越市）

【見学】春日山城跡、フォッサマグナミュージアム、

11月13日（火）

● Bコース グループ1：東京都

【見学】浅草寺・仲見世、都庁展望室

- Bコース グループ3：東京都

【見学】パナソニックセンター東京、皇居外苑

- 共通プログラム：東京都

【歓送報告会】訪日成果、帰国後の活動計画発表

11月14日（水）

- Bコース：東京都

【見学】日本科学未来館（グループ1・3）、お台場海浜公園（グループ1・3）、
東京タワー（グループ2）

羽田空港より帰国

3. プログラム記録写真

共通

	
<p>11月7日 スポーツと五輪に関する セミナー</p>	<p>11月7日 歓迎会 中国高校生による パフォーマンス</p>
	
<p>11月13日 歓送報告会 団員による感 想・アクション・プラン発表</p>	

Aコース グループ1・2・3、Bコース グループ3



11月7日 法政大学訪問

Bコース グループ1・2



11月7日 上智大学訪問

Aコース グループ1 (訪問地: 富山県、石川県)



11月8日 体験プログラム (万華鏡制作)



11月9日 富山県立伏木高等学校訪問・交流



11月10-11日 体験プログラム（民泊）
（富山県朝日町）

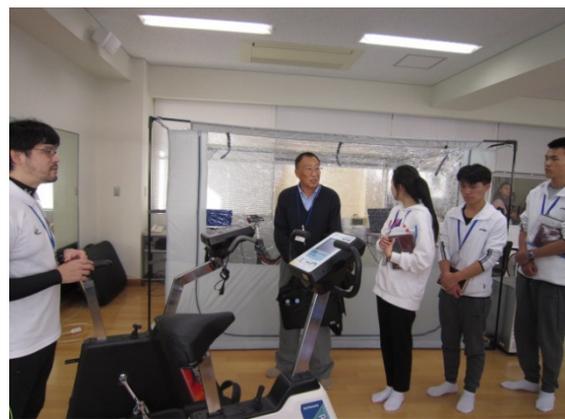


11月11日 いしかわ総合スポーツ
センター視察



11月12日 石川県立金沢商業高等学校
訪問・交流

Aコース グループ2（訪問地：福井県、滋賀県）



11月8日 福井工業大学武徳殿・体育館
視察



11月9日 福井県立武生工業高等学校
訪問・交流



11月10-11日 体験プログラム（民泊）
（福井県福井市）



11月11日 体験プログラム（サンドブラ
スト制作）



11月12日 立命館守山高等学校訪問・
交流

Aコース グループ3（訪問地：長崎県、佐賀県）



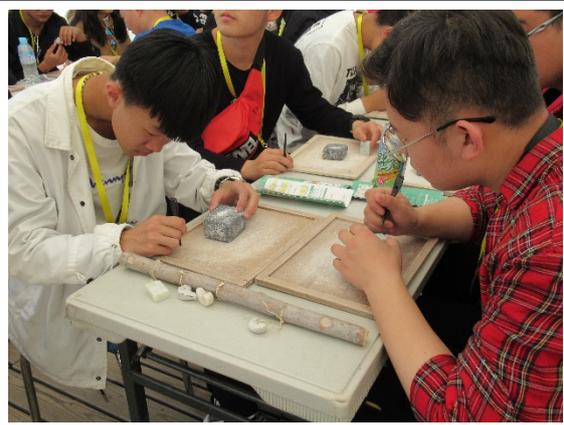
11月8日 長崎県立総合運動公園視察



11月9日 長崎県立佐世保商業高等学校
訪問・交流



11月10-11日 体験プログラム（民泊）
（長崎県大村市）

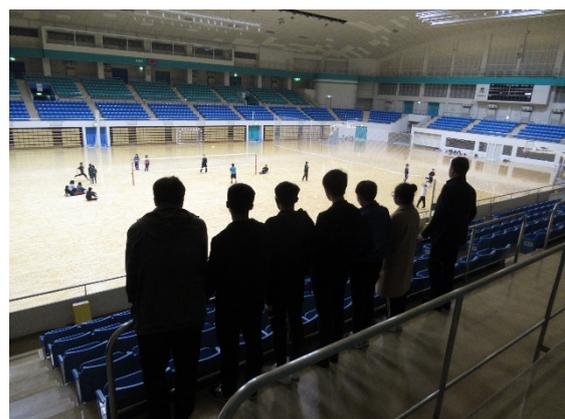


11月11日 体験プログラム（勾玉制作）



11月12日 佐賀県立唐津東高等学校
訪問・交流

Bコース グループ1（訪問地：岩手県、東京都）



11月8日 盛岡タカヤアリーナ視察



11月9日 岩手県立不来方高等学校訪問・
交流



11月10-11日 体験プログラム（民泊）
（岩手県栗石町）

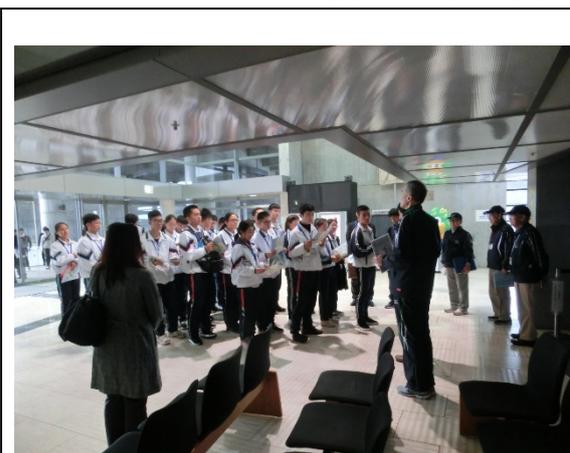


11月11日 体験プログラム（染物）



11月12日 東京都立総合工科高等学校
訪問・交流

Bコース グループ2（訪問地：宮城県、山形県）



11月8日 ひとめぼれスタジアム宮城視察



11月9日 宮城県仙台東高等学校訪問・
交流



11月11日 体験プログラム（紅花染め）



11月12日 九里学園高等学校訪問・交流

Bコース グループ3（訪問地：新潟県、東京都）



11月8日 オールアルビレックス・スポーツクラブ視察



11月9日 新潟県立燕中等教育学校訪問・交流



11月10日 体験プログラム（紙風船制作）



11月10-11日 体験プログラム（民泊）
（新潟県上越市）



11月12日 東京都立田柄高等学校訪問・交流

4. 参加者の感想（抜粋）

Aコース グループ1（訪問地：東京都、富山県、石川県）

- 今回の訪問で私が忘れられない出来事は、民泊と石川県立金沢商業高等学校での交流です。民泊ではまさに我が家に帰ったような感じがして、日本のお父さんお母さんからお世話や心遣いをしてもらい、家庭料理を食べました。それから海辺へ行って波しぶきと潮の満ち引きを見て、貝殻を拾い、幼い頃に戻ってその頃の楽しさをまた味わっているような感覚になりました。次に学校へ行くと先生、学生の温かい歓迎を受けました。彼らとの交流を通して日本の友人の親切さともてなしを感じ取り、私の記憶の中に永久に消えることのない印象と忘れがたい友情を残しました。
- 日本はとても親切に接待してくれて、伝統文化が豊かで、人々は大変友好的で、用意された活動は内容が豊富でした。
- 今回の訪問で私が忘れられない出来事は、石川県立金沢商業高等学校との交流と民泊体験です。学校では先生や同高学生から温かい歓迎を受けました。彼らとの交流を通して親切さと客好きを感じ取り、民泊では「お父さん、お母さん」からお世話や心遣いをしてもらい、とても友好的で、忘れられません。
- 今回、中国高校生訪日団第2陣に参加することができて、大変光栄です。私たちは富山県立伏木高等学校と石川県立金沢商業高等学校を訪問しました。この2校の学生たちはとても親切で客好きで、今回の交流活動は大成功でした。

Aコース グループ2（訪問地：東京都、福井県、滋賀県）

- 今回、7日間の訪日交流を行う中国高校生訪日団第2陣に参加して日本に来る機会を得て、大変光栄です。国外に出て、外国の新鮮で興味深い教育方法に間近に接し、理解し、学習する機会を持つことができました。こうした機会是非常に得

がたいため、私は今回の活動をことのほか大切に感じました。今回の活動で、私
は見識を深め、視野を広げ、意識を改め、大変大きな収穫を得ました。もちろ
ん、私にとっても得るものが多かったです。滞在期間中、私たちは日本の美しい
景勝地を参観するだけでなく、日本の高校を訪問し、同年齢の日本の学生と一緒
に授業を受けて交流しました。授業で気がついたことは、彼らの先生は常に元気
いっぱい親近感があり、学生の積極性を引き出すことができ、学生は疲れやつ
まらなさを感じることなく、より楽しく各種部活動やクラブに取り組んでいまし
た。同時に、学生も非常に積極的に、この大変得がたく短い七日間に参加してい
ました。私が最も印象深いのは、都市がきれいで秩序があり、大通りも狭い路地
も街中ちり一つなく清潔であることです。これは彼らの都市の別の魅力を形作る
ものと思います。万巻の書を読み、万里の道を行く。この道を歩いていく。日本
の異なる地域の特色を見て、異なる地域の文化を感じ、新しい友人と知り合いま
した。民泊体験の時は彼らの誠実なもてなしの姿勢に深く感動しました。今回の
日本訪問は私にとって収穫が大変多く、私は見聞きしたことを友達、家族、同級
生、先生方まで話して伝え、日本人の長所を学びたいです。

- 今日は訪日学生としての学習生活の最終日、この短い数日で、私たちは日本の高
校生の生活を体験しました。全てがなんて新鮮で興味深かったことか。私たちは
東京の法政大学を参観し、濃厚な大学の雰囲気を感じ、福井工業大学に行き、体
育健康科の施設や設備を見学しスポーツへの理解を深めました。福井県立武生工
業高等学校では、七宝焼のキーホルダーを制作したり、染織工程を見学したり、
英語の授業を受けて一緒にお昼を食べたり、節変わりに向けての準備をしたり、
弓道や柔道の演武を見学したりしました。福井の農家家庭に民泊体験をし、一緒
に日本料理を作ったり、おしゃべりしたり、互いにちょっとしたプレゼントを贈
りあったりし、日本の普通の人々が私たちが純粋に温かく誠実にもてなしてくれ
るのを感じました。滋賀県に着いたのが最終日で、立命館守山高等学校に行き、一
緒に化学の授業を受けたり、卓球をしたり、剣道を体験したり、自分で抹茶をた
てたりしました。日程は過密でしたが、私は豊富で多彩な日本文化を感じ、悠久
の歴史ある公園や寺院に行き、福井県立恐竜博物館に行き、伝統的な日本料理を
味わいました。同時に日本の友人と友情を育み、自分のことで他人に迷惑をかけ
ないという理念、ゴミの分別が厳格であること、秩序を遵守すること、美しく静
かな街道、慎重で親切で我慢強く謙虚で控えめな人々、これらはみな私たちが学
び伝える価値があるものです。今回の活動で見聞きしたことは必ず手本とし、自
ら周囲の手本となり、自分にも手本とすべきことです。よく学び、職場では自分
に厳しく要求し、慎重に細かく真面目に全てのことに対応し、誠心誠意仕事し、
生活を大切に過ごす。この活動に私を参加、体験させてくれたことを両国政府に
感謝し、今後私は社会に応え、学校の先生の教育に感謝し、父母の養育に感謝
し、必ず努力して社会に貢献できる人になります。最後に、中日両国の友誼が永
遠に変わることがありませんように。

- この数日の交流、訪問、学習を振り返り、とても名残惜しく、またどれほどの収穫があったことかと感じます。日本でのこの数日、日本人の慎重さ、時間に正確なところを確かに体験し、毎回何をするにも定刻通りに現場に着き、遅刻することはありませんでした。日本の街路はとてもきれいで、ほとんどゴミを見ません。一方、日本の街路はゴミ箱が非常に少ないです。あとで分かったのですが、日本はゴミの分別がとても細かく、自分のゴミをむやみに捨てずに持ち帰るので、ゴミ箱があるところでまとめて捨てるのだそうです。高校交流では、日本の学生と一緒に授業を受けましたが、彼らの教室の雰囲気はよく、学生同士の交流が多く、英語の授業は外国人の先生が行っていて、実験は自ら手を動かして行い、教育の施設設備は整っていました。体育の時、私たちは日本特有の軟式テニスを体験しました。この部活動の内容は幅広く、豊富で多彩で、剣道、柔道、茶道などがありました。私たちは新しい運動技能を学び、たくさんの友達と知り合い、楽しく付き合いました。また、日本の食べ物は種類が多く、栄養が豊富で、量は多くなくても、とても手が込んでいます。多くはセルフサービスが主で、彼らは食べ物を無駄にしません。この数日で私が最も印象に残ったのは民泊体験です。彼らの親切なもてなしを感じました。日本は発達した都市を作っていますが、一般的な家庭の経済も発展しており、私たちが泊まった家庭には空調もあり、庭は清潔に整えられ、緑がたくさんありました。日本のお父さんお母さんは私たちにとても親しく接してくれました。

Aコース グループ3（訪問地：東京都、長崎県、佐賀県）

- 今回の訪問で深く印象に残ったのは長崎県立総合運動公園です。体育館内の設備は大変整い、障害者に考慮されています。例えば、バリアフリーの更衣室や浴室があります。スポーツ分野に関して日中の相違点は、日本は部活動が豊富だが、中国の教育は知識を学習することが主で、部活動はそれほど豊富ではないことです。次に、日常生活において、日本はゴミの分別ができて環境保護に細やかに気を配っているが、中国はゴミの分別はしても、あまり細かく注意していないことがあります。
- 日本は体育会系の部活動が豊富で、運動器具の使用率が高かったです。「スポーツ」は、社会の中で広がりを見せていました。
- 参考：日本のゴミ分別は参考にできます。相違点：日本の部活動は豊富で、体育器材の使用率が高いです。共通点：運動が、社会に広まっています。
- 日本の学校は部活動が豊富です。スポーツ施設は整っていて、その利用率は高いです。

Bコース グループ1（訪問地：岩手県、東京都）

- 東京に来て第一印象はとても清潔で、衛生的なことです。地面に基本的にゴミは

なく、まるで洗い落とされたかのようにきれいです。私は家々の窓を観察しましたが、古いお宅もオフィスビルもガラスはどれも拭かれて光っていました。それから私が思ったのは、日本人はとても礼儀正しく、出会った多くの人がみな非常に友好的だったことです。次に交通は規則正しく、渋滞がありません。それから私たちは高校を訪問し交流と学習をしました。その日は私たちと日本の高校生が一日一緒に過ごしました。私たちは教室に入り、彼らと一緒に体育の授業を受けました。体育では、バドミントン、卓球、バスケットボールをして、とても楽しかったです。授業後、私たちは日本の高校生と親しく交流し、互いにコミュニケーションをとり、各国の文化の差異と生活スタイルの違いを理解しました。日本の高校生が私に最も深い印象を残したのは、その親切さ、時間を守ること、先生の言うことを絶対に聞くことです。訪問団を率いて参観する時、どこでも約束の時間を決め、段取りをし、一分一秒の間違ひもありませんでした。いつもその場所にもう少し滞在したいと思い、しかし残念でも離れて前へ進まなくてはならないので、微笑んで声を発しませんでした。最後に、やはり外の世界を見ると、思いがけない収穫がありました。このように、最善を尽くしてさらに多くの異なる事物を見てきたことは、自分の人生に対する投資にもなりました。

- この数日に見聞きしたことを通して、私は日本人の親切さと友情を感じました。両国の文化交流の中、相違はありましたが、中国人と同じく何事にも真面目に対応していました。この数日の視察と学校での交流学习を通して、スポーツに対してより多くを理解することができました。体育は人々の身体能力を向上させることができ、スポーツへの参加を通して、体育の重要性への認知度が高まりました。また、民泊を通して、日本人の生活をより深く体験することができました。そして小岩井農場の見学を通して、日本人の自然に対する畏敬の念を感じることができました。残念だったのは、交流時の言語の問題です。
- 今回、中国高校生訪日団第2陣に参加して、日本にこんなに何日も滞在できて、大変光栄です。私たちは上智大学、岩手県立不來方高等学校などを訪問しました。体育館、小岩井農場も参観しました。特色ある美食をいただきました。深く印象に残っているのは不來方高等学校を訪問したことです。同高の学生たちは大変親切で友好的でした。私たちは彼らと一緒に体育の授業を受け、みんな楽しく、スポーツを通じて友情を深めました。彼らと一体になり、まるで言葉の壁がないかのように交流し、プレゼントを贈り合いました。言語の交流に困難はあっても、私たちはとても楽しく過ごしました。別れる時は離れがたかったです。不來方高等学校への訪問は、私に深い印象を残してくれました。
- 訪日期间に私たちは上智大学を訪問しました。キャンパスは大きくありませんでしたが、学生たちは多様な言語で交流していました。盛岡市体育協会が管理するカーリング場や、まるでプールのようなスケートリンクを見学しました。不來方高等学校に訪問し、バレーボール、バスケットボール、バドミントンの試合に参加して、日本の高校生と交流しました。小岩井農場に行き、美しい景色を眺めま

した。特に嬉しかったのは、民泊に行き、日本人の家に泊まって日本人の家庭の温かさと親切さを受けたことです。盛岡手作り村に行って、染織を体験し、東京都立総合工科高等学校に行って、建築の授業を受け、木製高層モデルハウス作りを体験しました。私はこの期間に多くのことを学びました。例えば、日本の街路はとても清潔に保たれていて、車は左側通行であり、ゴミは分別することです。私たちは日本人の親切で礼儀正しいところ、衛生を保ち清潔で整っているところ、ゴミを分別することを学ばなくてはなりません。帰国後、私は日本で学んだことを同級生に話し、さらに多くの人に日本を理解してもらい、さらに多くの日本の風俗習慣、文化や礼節を学んでもらいたいと思います。

Bコース グループ2（訪問地：東京都、宮城県、山形県）

- 仙台市の宮城県仙台東高等学校を訪問した時、豊富で多彩な部活動を理解しました。学校の教育特色や理念など、私たちが参考にして学ぶべき価値があることがたくさんありました。盛岡手作り村で自らスカーフを染める工程を体験しました。制作工芸は非常に精巧で斬新であり、完成品を見た時、私たちは大変驚き、同じスカーフが様々に染められ、大きな達成感を覚えました。青少年は伝統文化を継承し大きく発展させるべきで、人類の文明の発展を推し進め続けるべきだと私は考えます。茶道文化を学び、私たちは精巧な模様を主人に向けることが主人に対する尊重を表すためなど、かすかな動作の背景にある意味を理解し、とても深く印象に残りました。
- 今回、宮城県仙台東高等学校と九里学園高等学校に訪問して、多くの収穫がありました。特に日本の高校生の親切は忘れないと思います。今後の生活において、私は日本人の環境保護、時間を守る考えと理念を手本にしたいです。中国には、日本と多くの共通点があると思います。例えば、中日双方の国民はともに友好的で親切です。今回私に深い印象を残した三つの点があります。一つ目は一目惚れした体育館です。その構造、独特の風格は私に深い印象を残しました。二つ目は2つの高校での交流です。同高学生の歓迎と親切は忘れられません。最後の一つは、盛岡手作り村での染織体験です。以前、テレビで見たことはありましたが、今回自身で体験し、深く記憶に残りました。また機会があれば来たいと思います。
- 中国高校生訪日団第2陣の一員になることができ、大変光栄です。日本滞在期間中、私たちは宮城県仙台東高等学校と九里学園高等学校の2校で交流しました。最も深く印象に残ったのは、日本の高校生との交流で、この2校で私は貴重な友情を得ました。日本の親切なもてなしと細やかなお世話に大変感謝しています。このプログラムで、私は盛岡手作り村の染織工房で染物体験もしました。そして日本の茶道文化を理解し、本場の日本料理を味わい、多くの日本の高校生と知り合い、とても感動し楽しみました。特に九里学園高等学校は、私に深い印象を残しました。日本の高校生は大変親切で親しみやすく、私たちが校内に入った

時、進んで挨拶をしてくださいました。彼らは中国語の挨拶である「你好」を学んでいて、すぐに打ち解けられました。最後に、私は日本の高校生と一緒にバドミントンをしました。毎回勝ち、私たちのチームは祝いました。とてもおもしろかったです。中日の共通点・相違点について、私たちはともに友好的な民族であると言いたいです。いわゆる「朋遠方より来たる、また楽しからずや」であり、双方の来訪者に対して私たち両国はともに親切に招待します。最後に、今後の中日両国の交流活動がますますよくなり、私たちの友情が永遠に続きますように。

Bコース グループ3（訪問地：新潟県、東京都）

- 日本の学校は、学生個人の礼節と道徳教養の分野を非常に重視しており、学生の素質はみな申し分ありません。環境衛生に対する管理方法の程度がよく、今後生活の中で効果的に参考にし、積極的に伝えることができます。国内の衛生事業のために経験を提供し発展させ、中国の国情に合う環境衛生の整備システムを模索します。
- 中国と日本の融和について、日本の様々な文化、お茶の文化などは中国の文化と非常に似ています。それは、そうした文化が、中国の伝統から生まれたためであり、実際のところは、そうした文化そのもの間には違いはなく同じであるということが往々にしてあります。
- 民泊の家庭は訪日学生に対して親切にもてなしてくれ、夜通し打ち解けて話し、互いの国に対して理解が深まると同時に厚い友情を結びました。このことは永遠に忘れられません。
- 礼儀の面で日本人はレベルが高く、礼儀の言葉、時間を守り秩序を守り、他人に迷惑をかけないなど行動規範を含め、相当なレベルに達しています。このほか、日本の各地の科学技術、教育施設に対し、私は非常に深い印象を受けました。これらの専門施設は、日本の教育事業の発展を大きく促進するものです。日本の学校は学生のスポーツ分野での発展を比較的重視していて、中国は自然科学の知識の勉強の発展を重視しており、私はそれぞれにメリットとデメリットがあると考えます。

5. 受入れ側の感想

日本高校生

- 私は、この中国と日本の交流で、中国のことをたくさん知ることができました。中国の高校生と中国語の授業を受けました。中国の高校生は、自己紹介で「こんにちは」「ありがとう」などしゃべっていて、私たちより勉強熱心だなと思いました。また、私は中国の高校生の誘導係で、学生が待機する部屋まで案内すると、とても礼儀正しく挨拶してくれ、とてもすばらしいなと思いました。日本人も礼

儀正しいですが、それよりも丁寧で素敵でした。中国の高校生の歓迎会も行われました。中国の高校生は伝統的な踊りを踊ってくれました。衣装もとてもきれいで、踊りもキレイキレイに踊ったり、アクロバティックなことも最後にしていたり、とても感動しました。また、中国の高校生が描いた絵がプレゼントされました。想像力豊かで、たくさんの色が使われた絵はとてもきれいでした。また放課後には、中国の高校生との交流会がありました。学生さんと簡単な自己紹介と会話を楽しみました。男子学生から伝統工芸品のかんざしをプレゼントされました。木で作られたシンプルなかんざしはとてもきれいで、とても嬉しかったです。この交流をきっかけに、12月15日から行く、大連市でのホームステイでも積極的に話しかけたりして、学生さんとホストファミリーとの仲を深めたいです。中国の高校生との交流でもっと中国の人たちのことや、その町の雰囲気や特徴にとっても興味がわいてきました。

- “衝撃” 中国の高校生と、初めて出会った時の心境を表すとすれば、この言葉が一番ぴったりだと思います。なぜかと言うと、歓迎式の際、目の前に民族のような衣装を身にまとった学生であふれていたからです。今までの私には、中国の文化に関する知識がなく、ぱっと思い浮かぶ民族集団もありませんでした。しかし、彼らは誇りをもって、中国伝統のダンスを踊り始めました。非常に激しいダンスで心震わされると同時に、彼らの愛国心を強く感じました。この出来事に、私は衝撃を受けました。中国は日本と同じアジアであり、知らないことはないだろうと過信していました。しかし、実際は見たことのないような衣装でダンスを踊る文化が存在し、自分の知識不足を感じました。もっと中国の文化を学びたい、現地で学びたい、そんな気持ちでいっぱいになりました。彼らに出会って刺激を受け、より中国の文化に興味を持つことができました。本校の後輩たちにもこのような機会の大切さを教え、中国に興味を持ってほしいと感じました。今回の交流は、本当に忘れられない経験となりました。この交流が末永く続くことを願います。
- 普段学習している中国語と英語を使って、ほかの国の高校生と触れ合い、話して、言いたいことが言葉で言い表すことのできない悔しさと、言葉が伝わりコミュニケーションが伝わった時の嬉しさ、言葉では言い表すことのできない感情が大きかったです。自分たちはいつもの授業のように発音すると、違う単語に聞き取られたり、まったく伝わらなかったりと、少し自信をなくしてしまう時もあったけど、とても良い経験になりました。中国語を使えなかったら英語を使ったりと、語学の勉強の大切さを思い知りました。授業で話せるけど、いざ中国の高校生と交流する機会があった時に、自分の思ったことや聞きたいことを、習った言葉でつないでコミュニケーションをとれるかどうかがとても大切だと実感しました。とてもいい経験になりました。
- このような国際交流のプログラムで、実際に外国人と話をするのは初めてでした。何をしゃべっていいのかはじめはよく分からなくて、すごく緊張していました。

た。ですが、自己紹介の時に、中国の学生さんが中国語の発音をととても丁寧に教えてくれたので、どうにか初めての会話ことができました。人生初の中国語での会話でした！また、漢字は日本と中国とで共通に使われている文字だったので、筆談をすることもできて面白かったです。自分の名前の中国語読みも教えてもらい、名前を言うのも特別な感覚でした。中国と日本はどちらかというに近い位置にあると思うのですが、共通点もたくさんあるものの、違いもかなり多いんだなと思いました。学校に関しては、特に日本と大きな違いがあって、驚きが多かったです。そんな中、中国の中では日本のものがかなり流行していると知った時には、日本人として嬉しかったです。JPOP も人気のようで、共通の話題をもって話せたことは嬉しかったし、楽しかったです。また、寿司やてんぷらなども知っていると言ってくれたのも印象に残っています。日本発のアニメのグッズを持っている学生さんもいて、もっと長い時間話せたらよかったのになぁと思いました。今回、中国のことをたくさん教えてもらった分、いつか日本のいいところをもっと広めていける人になりたいと思いました。

- 私は中国の学生たちと交流したのは、今回で2回目でした。今回の交流では、3年生のパワーポイントを使ったプレゼン、校内見学、座談会、などをしました。座談会では、前回の中国の学生たちの時よりも話せたので、よかったです。前回は、まだ中国語も習い始めの頃だったので、あまり話せませんでした。今回は中国語を習って半年以上経っていたので、通訳の人を通じてですが、中国語を使って話すことができました。中国の学生たちも、とてもフレンドリーだったので、楽しく話すことができました。中国の学生たちの好きなものの中で、「君の名は」など、日本の作品もあることを知ることができました。座談会の前に、外国語学系の1、2年生で中国の学生たちの発表を見ました。「墨」がテーマのダンスが特に気に入りました。日本ではそういうダンスはあまり見ないので、面白かったです。最後に、「茉莉花」をみんなと一緒に歌いました。中国では、有名な歌なんだと思いました。今回の「JENESYS2018」学校交流プログラムを通して、中国語の勉強をもっと頑張りたいと思うようになりました。来年、修学旅行で中国に行くので、それまでに今よりもっと中国語が分かるように頑張りたいです。
- 今回も数時間という短い時間だったが、多くのことを学ぶことができたと思う。今までに英語でコミュニケーションをとり続けることは経験がなかったためとても緊張したが、最終的にはとても良い時間になったと思う。それぞれ、英語というひとつの言語でしかコミュニケーションを取ることができず、伝えるのに苦労する場面が何度もあったが、同時に自分の発言が相手に伝わった時、相手の発言が理解できた時にとっても大きな喜びを感じ、自分から伝えようとする姿勢、相手の言葉を理解しようとする姿勢がとても大切だと思った。そして今まで、学校内やテスト以外で自分が学んだ英語を使う場面がなかったため、実際に普段の会話で英語を使う様子があまり想像できず、自分がどの段階で苦労するのか分からなかったが、今回の経験から、自分に足りない部分に気づくことができたと思え

る。今後は、ただ英語を勉強するのではなく、実際、現地で使える力を自分で身につけたいと強く思った。

- 私は今回、交流プログラムの学年レクの企画・運営に携わりました。3学年の交流のテーマが「スポーツと五輪」ということだったので、本校の体育祭で行ううちの3種目で、クラス同士で戦う「ミニ・オリンピック」を企画しました。3種目では、日本の運動会の有名な種目の玉入れ、大玉送り、台風の目をしました。中国の高校生の方に、日本の運動会を楽しんでもらいながら、日本の運動文化に触れてもらうことができたので、とても嬉しかったです。当日、私は進行や全体の誘導を担当していました。クラスの学生の誘導を主にしていたので、中国の高校生と触れ合う機会が少なかったのですが、その中でも、ちょっとした質問に答える時に、なかなか言葉が出ず、改めて、英語をしっかりと学ばなければいけないと感じました。特に英単語を覚えることの大切さを実感しました。最後に質問をされた時に、senior という単語が分からず、質問をした人に手間をかけさせてしまったので、申し訳なく思いました。しかし、単語だけでも覚えておけば、質問の意味が大まかに分かると思うので、これからの学習では英単語の練習を頑張ろうと思います。また、頭の回転を速くすることも大切だなと感じました。前述の質問について、何年生かを尋ねられることは分かっていたので、senior が分からなくても、…grade とは答えられていたなとあとから思い、その時に出てこなかったのが悔しかったです。これからは、このような対応力も鍛えていきたいです。そのためには、より多くの人と関わらなければいけないと思うので、自分から話しかける努力をしたいと思います。そして、いつか海外の人と会話ができるぐらいの力をつけたいです。今回の企画で最も嬉しかったことは、はじめにも述べた通り、学年のみんなで力を合わせ、中国の高校生に楽しんでもらえたことです。説明が不十分で混乱が少し起きましたが、全体的に楽しく終えることができました。準備期間が短く、打ち合わせも大変でした。でも、学年委員、体育委員、学年の有志の人たちで協力し、とても楽しい時間を作ることができました。もちろん、学年の人たちもより一層楽しい時間にしようと積極的に中国人高校生の方々を受け入れるなどの協力をしてくれました。この交流プログラムの学年レクが、中国人高校生の方々の良い思い出になってもらえたら、とても嬉しいし、やりがいのあった仕事だったと思います。
- 僕は今回、中国の高校生と交流の機会があったことを、とても光栄に思っています。僕たちの学校は、外国人との交流が多い学校で、外国人とは何回も会っていましたが、これまであまり話す機会がなく、どんな文化があり、どんなことを学んでいるか想像が付きませんでした。しかし、今回話すことができ、どんな学校で、どのような文化があるのか知れたような気がしました。自分たちがいつも話している言葉が通じないので、相手に自分の思いが伝わっているのか分かりませんでした。相手の高校生は優しく対応してくれました。そして、海外へ行った時に、いろいろな人と話し、相手の文化をより詳しく知りたいと思うようになり

ました。自分にはまだまだ相手へ自分の思いを伝えられるだけの言葉の力とコミュニケーション能力が足りないので、これから、この二つに重点を置いて、授業や人とコミュニケーションをとっていきたいです。中国の人は、たくさんの民族が住んでいて大変そうなので、そのような国があることを知っておくと、これからの自分の経験値になると思って、中国の高校生とコミュニケーションをとっていました。また、中国には独特のダンスみたいなものがあり、初めて見た時は驚きました。リズムも独特で、世界にはこのような文化が無数にあると思い、すごいと思いました。まだまだ、この世にはすごいことがあると思い、いろいろな国へ行って見て、いろいろな人と話してみたいと思いました。自分の言葉は通じていたみたいだったので、少し自信になりました。これからもこういう機会を大切に、自分から積極的に話していきたいです。

- 私は今回の交流プログラムを通じて、大変貴重な体験、刺激を受けました。体験の部分では、中国の高校生が中国の伝統文化を見せてくれたことです。日本は、中国の文化を吸収し発展していった国なので、その伝統的な文化を知ることができてよかったです。しかしそれよりも、中国の高校生との交流が、私にとってとりわけ刺激的でした。それは、コミュニケーションをとることの難しさとコミュニケーションをとることの楽しさです。これまで、国際交流委員として、海外の学生との交流を行ってきましたが、大概、英語を話せる学生と交流できました。しかし、今回、交流してきた学生は英語をあまり話せない学生との交流でした。これまで、英語で交流してきた私は、最初、コミュニケーションをとることに少しためらいを感じていました。なぜなら単純に、話ができないと思っていたからです。そこで、私は某有名企業の翻訳アプリを利用しました。翻訳アプリが便利だったと言いたかったのではなく、翻訳アプリを使ってでもコミュニケーションがとれることの楽しさに気づけたということです。また、中国の高校生に中国語を教えてもらい、やはり難しいなと感じましたが、相手の高校生に発音が通じた時は嬉しかったです。たった一日だけでしたが、中国の高校生とたくさんのコミュニケーションが取れ、とても密度の濃い時間が過ごせました。この経験を受けて、私は、大学で中国語を学んでいきたいと思うようになりました。そして今度は、私から中国へ訪問し、中国の方へ恩返しできればと思います。
- 中国の高校生との交流会は、中国の人と違った文化などに触れて、中国語への関心が高まりました。自分が勉強している中国語はあまり発揮できませんでした。中国の高校生はとても優しく、もっと仲良くなりたいという気持ちがわきました。伝統的なダンスはとてもよく、勉強になりました。私が中国のおすすめの場所を聞くと、青海と答えてくれたので、今度、機会があったら行ってみたいと思いました。短い時間でしたが、本当に楽しい時間で、とても良い経験となりました。もっと多くの中国人と話し、中国語力を高めていきたいと思いました。今度は自分たちが中国に行きたいと思いました。本当にありがとうございました。
- 中国の高校生が来ると聞いて、英語を通じての交流になるだろうと思い、どんな

ことを質問しようか考えていたが、実際は、英語を中国の高校生は分からないと知って、困惑した。そのため、スマホ、タブレットの翻訳機能を通じての慣れないコミュニケーションになってしまい、思っていたようにいろいろ突っ込んだ質問ができなかったのが残念だった。それでも、将来の夢や地元の場所などは翻訳アプリを通じて知ることができて嬉しかった。今回は言葉を使わないコミュニケーションだったが、それはそれで面白かった。一番印象に残ったのが、今、英語を勉強する中で、テストのためだけでなく、将来、外国人とも英語を母語としない人とでも英語を通してならコミュニケーションできるからと思って勉強していたが、意外にも英語を勉強していると思っていた中国の高校生と、英語を通じてコミュニケーションできないと知り、英語が話せれば何とかかなるという自分も含めた日本の風潮は正しいとは限らないと実感した。英語だけでなく、幅広い視野での外国人との交流を考えないといけないと思った。でもこの経験ができたからこそ新しい発見があって、これからの外国人とのコミュニケーションと充実させようという気になって、有意義な時間になった。

- 前までは、他国の人とは言葉が通じないのであまり触れ合いたくないと思っていました。しかし、今回の交流によって大きく変わりました。通訳の人を初めて見た時、日本人か中国人か分かりませんでした。しかし、外見は似ていても、話す言葉は中国語だったので、そのギャップが逆に親近感を覚えるきっかけになりました。自分でも、相手になった中国の高校生と会話をすることで、少しずつ充実感がわいてきました。将来、グローバルな世界に生きていくためには、最低限英語を話せないと厳しいと思います。今回の交流をきっかけに、自分の中にある「垣根」がなくなったような気がします。失敗を恐れず外国人と接していきたいと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

6. 参加者の対外発信

11月7日/高校生/Weibo	11月10日/高校生/ WeChat
	
<p>(概要) 日本到着についての発信 #JENESYS2018 第 2 陣中国高中生访日团#</p>	<p>(概要) ホームステイについての発信 今日からホームステイ、一泊して、明日はヒスイ海岸に行く。</p>

11月11日/高校生/ WeChat	11月11日/高校生/ WeChat
<p>(概要) 訪日の感想についての発信</p> <p>日本・東京、富山、伏木高校、五箇山、朝日町、ヒスイ海岸、金沢、all nice、毎日の食事もとても美味しい。日本のすばらしさに感動です。中日両国はお互い学びあい、友好の道を歩んでいこう。</p>	<p>(概要) ホームステイについての発信</p> <p>今日の午前中は五箇山に行き、合掌造りの家と紅葉を見てきた。とても美しかった。午後からはホームステイ、ホストファミリーのお母さんは中国四川省出身で、お父さんは日本人、可愛い子供が二人いる。とても親切で感じのいい家族だった。みんなで一緒にたこ焼きを作った。楽しかった。おやすみ。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<p><Aコース></p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問した各所で感じたこと、施設の利用率が高いこと、部活動が盛んであること、スポーツ関連のイベントへの参加率が高いこと、などの交流の見聞をクラスメートや友達に伝えたい。 日本での収穫、全国規模でスポーツ活動を奨励していること、学校内で 	<p><Bコース></p> <ul style="list-style-type: none"> 私たち一人ひとりにとって忘れられない経験であり、それらを私たちは日本での収穫として、中国に戻った週に報告書という形で、学校全体の先生と学生に示す。 短い時間ではあったけれど、私たちが見てきた数多くのことを家族や友人、先生や同級生らに伝えたい。ま

のスポーツ競技の種目が豊富であること、環境保全のためのごみの分類などが徹底されていることなど、また、日本の美しい風景や興味深かった出来事などを友達やクラスメートに伝えたい。

た、私自身も今回のテーマである「スポーツと五輪」コースに関わることができ、今後、訪日団の先生方や学生たちと一緒に頑張っ、スポーツモラルを遵守し、オリンピック精神を引き継いで行く。